



成長を信じて

里 舘 幹 彦

令和4年度が始まり、約2ヶ月が過ぎました。第3学年は修学旅行、第2学年は宿泊学習が終了し、第1学年は見学旅行を控えています。また、沼田学園運動会も実施されました。学校では、1年間で多くの学校行事が行われます。生徒は、日々の授業はもとより、学校行事などを通して、成長して（「生きる力」を身に付けて）いきます。

その学校行事は、教師の適切な指導の下、例えば、「①行事の意義の理解→②計画や目標についての話し合い→③活動目標や活動内容の決定→④体験的な活動の実践→⑤振り返り」という過程で行われます。特に「⑤振り返り」を大切にしたいところです。生徒自身が学校行事の前と後とを比べて、1年前と比べて、自分がどう変容したのかを振り返ることで、少しずつの変容の積み重ねが、成長であり、生徒が自分の成長を実感することが、次の学び（意欲）へとつながります。

私たちは、どうしても、今の生徒の姿に注視してしまいがちです。しかし、どの生徒も、毎日、少しずつ、変容しているのだと思います。生徒の成長を信じて、日々、関わっていくこと、そして、時折、振り返り、生徒の成長を確認することも必要ではないでしょうか。



6月の行事予定

3（金）英検1次

6（月）生徒あんどん制作開始

9（木）避難訓練

家庭学習強化週間

11（土）中体連陸上大会

13（月）振興会研修

14（火）薬物乱用防止教室（3年）

20（月）校内研修

21（火）テスト前部活動中止

～23日

23（木）期末テスト（1日目）

24（金）期末テスト（2日目）

27（月）一斉委員会

28（火）スクールカウンセラー

29（水）北空知中体連大会

～30日

☆3年生修学旅行☆

4月26日（火）から函館・道南方面をめぐる2泊3日。体験的な活動を通して、課題解決する能力を身に付ける等のねらいをもって、事前の取組から、当日に臨みました。普段とは違う環境で、仲間と協力して充実した学習活動を進めました。

《主な行程》

1日目 登別マリンパーク、有珠山、洞爺湖（宿泊）

2日目 五稜郭公園、函館市内自主研修（宿泊）

3日目 大沼公園、ウポポイ民族共生象徴空間



☆2年生宿泊学習☆

5月12日(木)札幌市で宿泊学習が行われました。1日目は、キャリア教育の一環として、北海道情報大学、北翔大学、酪農学園大学を見学しました。その後、北海道開拓の村散策。2日目は、札幌市内自主研修を行いました。テレビ塔から、時計台、旧道庁、白い恋人パークや円山動物園等を事前に立てた計画に沿って、市内を巡りました。



☆前期生徒大会(5/10)☆

3年生を中心とした、前期生徒会活動がスタート。自分たちの学校生活をよりよくするための意見や質問が各学級の審議を経て、話し合われました。生徒の手による自主的な活動を期待します。



☆クリーン沼田・

グラウンド美化一斉運動に参加☆

5月15日(日)、クリーン沼田に卓球部、吹奏楽部員が参加し、町内のごみ拾いを行いました。また、沼田町学校運営協議会の事業により、小中学校グラウンド草取り作業が沢山の方々に参加していただき、行われました。昨年に引き続き、ありがとうございました。



☆陸上記録会☆

5月19日(木)、中学校グラウンドで陸上記録会が行われました。生徒全員が100m走。また、1500m走、走り高跳び幅跳び、砲丸投げから1種目にエントリーしました。晴天の中、記録に挑戦した沼中生でした。



☆学園運動会☆

5月28日(土)、今年度も小中学生が3つのグループに分かれての開催となりました。各グループは、3回の合同練習を経て「同心協力～コロナなんてイチコロだ」をテーマに、一生懸命、競技に取り組みました。

運動会のねらいには、「小学生は、中学生の強さに触れ、親しみや憧れの気持ちをもつ、中学生は、年少者へのいたわりの気持ちもち、自己有用感を育む」ということが含まれています。沼田小中一貫連携教育を支える取組となっています。

保護者の皆様、温かい応援ありがとうございました。



(中1)「五色綱引き」



(中2)「大玉リレー」



(中3)「ダッシュ&ロープ前」



(中3)「じゃまじゃま玉入れ」

☆令和4年度 全国学力・学習状況調査☆

4月19日(火)全国一斉に文科省「全国学力・学習状況調査」が行われました。本校においても教科に関する調査(国語、数学、理科)、生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査を3年生対象に実施しました。この調査は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」ことを目的としています。学校では、この調査結果をもとに、学力向上に向けて、効果的な取組の実践を目指します。